

# たかすっ子

学校だより 第3号  
令和3年6月1日発行  
千葉市立高洲第四小学校

## いのちを守る教育

校長 渡辺 基博

先日の運動会では、多くの保護者の皆様にご参観いただき、誠にありがとうございました。子供たちは「おうちの人に練習の成果を見てもらいたい。」「全員でそろえる美しい演技、堂々とした姿を披露したい。」など、一人一人が目標を持って取り組んでいました。この間、下学年に教えるため、一生懸命に振付を覚え、手本となろうとしていた姿、その姿を見て、憧れの気持ちを抱くなど、近接学年で行う表現種目のよさも見られました。当日は、時折強い風が吹く中でしたが、応援団長の気合の入った声と手拍子で全校児童の心が一つにまとまり、どの学年も練習の成果を十分発揮できました。一方で、今年度も新型コロナウイルス感染防止対策を考えての運動会となり、マスクを外して運動することで生じる感染リスクを軽減する観点から、団体競技やリレー等の種目は見合わせました。また、参観する皆様の密をできるだけ避けられるよう、個人走では優先席（カメラ席）を設置するとともに、ダンスでは、本部席を向く子と砂場側を向く子に分けるといった取り組みもしました。保護者の皆様には、参観に対するご理解、ご協力をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。そして、この運動会練習の期間中、体操服の洗濯、当日使用する洋服、用具の準備等、お力添えをいただいたおかげで、担任も指導に力を注ぐことができました。今月も、水泳学習、絵をかく会など、用具を準備する学習が続きます。引き続き、ご協力をいただけますようお願いいたします。



さて、千葉市では、小学5年生と中学2年生を対象に、「いのちを守る教育」という心肺蘇生の実技練習を取り入れた救命教育を行っています。きっかけは、平成22年度に千葉市医師会が「千葉市を日本のシアトルに！」という活動を始めたことです。ほとんどの大都市では、心臓が停止してしまった場合の救命率は10%以下ですが、アメリカのシアトル市の救命率は約40%です。その理由は、市民の「倒れている人を助けようという意識の高さ」と「市民の半数以上が救命講習受講者であること」と言われています。シアトル市では、救命意識向上のため、中学1年生を対象に「救命講習」を学校の授業プログラムに入れていきます。この意識向上のためには、ライフスタイルのより早い段階からの養成が不可欠であるという考え方から、本市でも、平成23年度からこの「いのちを守る教育」（救命教育）を始めました。その結果、初年度、千葉市でわずか4校だった実施校が、現在では、市内のほとんどの公立小中学校で実施するようになり、全国的にも注目される取り組みとなっています。本校でも、6月9日（水）に5年生を対象に実施します。心肺蘇生人形を使った胸骨圧迫、AEDトレーナーを全員が1回以上操作する体験をとおり、倒れている人を助けるための方法を学ぶとともに、命の大切さをあらためて知り、助けたいと思える気持ちを育てたいと思います。